

在宅サービスにおける知的障害のある人の支援者へのインタビュー調査分析

—C事業所での実践から—

和歌山大学 金川めぐみ (会員番号 9580)

キーワード3つ：施設との相違、ケアの専門性、オープン・ダイアログ

1. 研究目的

報告者は、障害のある人、特に知的障害のある人の在宅生活支援サービス過程における法的課題を明らかにし、その克服を目指す調査研究を進めている（注）。今回は、知的障害のある人の生活を支える在宅サービス事業所を対象に、ケアの現状と課題についてインタビュー調査分析を行った。

調査対象のC事業所は、2003年にZ市で誕生した特定非営利活動法人である。設立時の定款では「この法人は、「対等平等に生きる権利」を行使して社会に大きく貢献する自立生活運動を推進し、障害者の社会的ハンディに対し総合的な援助サービスを提供する事業を行い、もって障害者の福祉に寄与することを目的とする。」とある。障害のある人の自立生活・地域移行はしばしば議論されるが、知的障害のある人の自立支援や地域移行を実際に支援している事業所はさほど多くない。その中でも、C事業所は、知的障害のある人も含め障害のある人の自立生活や地域移行を積極的に支援している団体であり、この事業所における在宅生活支援の現状と諸課題を分析することにより、在宅サービスの質的改善の進展を確認し、その法的、社会的課題を抽出することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

今回の調査は、質的調査の手法をとる。具体的には、同法人支援コーディネイターのX氏に対し、半構造化されたインタビュー手法によるデータ収集を行った。考察では、トランスクリプトを整理し分析する。

3. 倫理的配慮

東京都立大学南大沢キャンパス研究安全倫理委員会の承認を得ている。対象者にはインタビュー開始時に調査趣旨を説明した上で、実施について承諾を得ている。聞き取りに際しては承諾を得た上で録音を行い、インタビュー内容の要約については、内容の確認をいただき掲載の許可を得ている。

4. 研究結果

インタビュー調査において、下記の4点が明らかになった。

(1) C事業所における知的障害者への支援の経緯

そもそも身体障害での自立生活は進み始めているのに、知的障害の地域生活が進まないのはなぜかという疑問から、C 事業所での地域生活への支援の試みが始まった。実践過程において、知的障害の地域生活が進んでくれば、当事者や支援者、家族の認識も変化してくる等の地域移行の進展にも伴う環境変化が指摘された。

(2) 施設生活の特殊性と責任

インタビューでは、全国的に知的障害のある人の自立生活が進まない理由として、施設や地域の「壁」という点が指摘される。地域生活の支援者から見たときの施設における閉鎖性（ブラックボックス性）が指摘されるものの、施設が高い壁を作ってしまった原因、ないしは施設入所者が通常の暮らしを送ることができなくなった原因は、当事者や施設の問題ではなく、在宅事業者も含めた社会全体に関わる問題であるとの認識が示された。

(3) 在宅サービスにおける支援者の専門性

従来から C 事業所は、身体障害のある人の地域移行と在宅生活支援について進展させていたものの、知的障害のある人の地域移行と在宅生活支援を実際に経験した結果、両者の質の違いがある旨の指摘があった。また在宅生活における支援者の専門性と施設生活における支援者の専門性との相違についての見解が示された。

(4) 相互理解手法としてのオープン・ダイアログ

知的障害がありかつ強度行動障害がある人の場合、在宅生活を送る過程で支援者や地域との種々の軋轢を経験する。このような状況に陥った当事者と支援者の双方の相互理解を目指した「オープン・ダイアログ」の手法を、C 事業所での実際の支援過程で積極的に取り入れている点が確認できた。

5. 考 察

本報告では、インタビューから明らかになった(3)在宅サービスにおける支援者の専門性、(4)相互理解手法としてのオープン・ダイアログについて分析と課題提示を行う。前者においては、施設と対比しての在宅生活を支える支援者に求められる特性がインタビュー調査からある程度明らかになった。また後者のオープン・ダイアログ手法については、その導入経緯と効果が、C 事業所の場合においてある程度明確になった。

今後、これらの点に対して、他の在宅生活を支える支援者にも共通した視点であるのか相違があるのか等の分析を踏まえ、共通課題を提示する点を、今後の実践課題としたい。

(注) 報告者が所属する研究グループは、日本社会保障学会第 73 回ミニシンポジウム「障害のある人の人権と家族・にない手の人権―津久井やまゆり園殺傷事件を契機に」(2018 年 5 月)を契機に開始し現在に至る。これまで日本社会保障法学会編『社会保障法』34 号(2018 年)、矢嶋里絵他「津久井やまゆり園利用者家族聞き取り調査報告」首都大学東京人文学報 515-31(2019 年)等を公表し、本報告は矢嶋他「知的障害のある人の支援者への聞き取り調査報告」東京都立大学人文学報 517-3(2021 年)をベースにする。